

周防灘30カイリ・潮の路県際間交流事業ワークショップ徳山会場議事録

- 1 開催日時 平成14年10月7日(月)12:00~14:00
- 2 開催場所 ホテルサンルート徳山 3階会議室
- 3 出席者(大分県側) 三浦、丸山、是松、深田、長峯 5名
- 4 出席者(徳山市側) 森山、福原、藤井、行富 4名
- 5 議事項目
 - 1) あいさつ及び事業説明(大分県産業創造機構)
 - 2) 自己紹介(住所・氏名・所属グループ程度)
 - 3) 両地域を結ぶ交通事情とデータの比較(大分県産業創造機構)
 - 4) 参加者それぞれの地元での活動内容等について(各参加者)
 - 5) 互いの地域に対する理解や認識、関わり等について(各参加者)
 - 6) 相互交流に対するアイデア・意見等について(各参加者)

6 議事記録

深田 それでは、今回の事業についてご説明申し上げます。

まず、周防灘30カイリ潮の路県際間交流事業ワークショップ資料という私どもの用意しました冊子をご覧いただきたいと思います。時間が2時で限られておりまして2時間ということですので、手短にご説明をさせていただきます。

1番と致しまして、今回の事業の主旨というか、どうしてこのようなワークショップを開催するに至ったか、どういう目的があるのかというようなことを若干この後私の方からご説明申し上げたいと思っております。その後、初めてでございますので、みなさんそれぞれ自己紹介をしていただくということで、この自己紹介につきましては、ご住所、ご住居とか、お名前とどういった活動団体に所属されているのかということ程度でここは納めていただきます。そして、この自己紹介が終わった後に、お食事を15分くらいお取りしますのでここで食事をとっていただくということで、次に、お食事をとられた後に、3番目と致しまして両地域を結ぶ交通事情等データの比較、若干簡単なものを私のほうでご用意しておりますので、このご説明を差し上げます。4番目と致しまして、参加者のそれぞれの地元での活動内容、ここで、それぞれの活動についてご説

明いただくということにしております。5番目に、それぞれの地域に対する理解度、認識、これまでのそれぞれの個人的な関わり等でも結構ですけれども、どのようなそれぞれのお立場で関わりがあったのかということをお各参加者のほうからあればということですが、ご説明をいただきたいと思っております。6番目と致しまして、本来このワークショップの大きな目的の部分ですが、相互交流、いわゆる徳山の主に周南地域と大分の国東地域の交流に対するアイデア、意見等あればここでご発言いただきたいと思っております。2時間の会議の中でそういったものもなかなか出にくいというようなことも充分考えられますので、もしよろしければお手元のほうに原稿用紙等お配りしておりますので、この場でちょっといいそびれたとか、ちょっと時間が経ってこういうことを思いついたとか、そういうお考え等あれば結構ですけれども、私のほうまで何かそういうご提案等あれば原稿を送っていただきたいということでございます。それでは、2ページ目をお開きください。2ページ目なんですけれども、今回の事業の流れについてご説明致します。これは、地域連携支援ソフト事業というのが国土交通省にありまして、この国土交通省に対しまして、大分県の東国東地方振興局という出先機関、こちらが国土交通省に要望致しまして、それが採択されて、国土交通省から私ども財団法人大分県産業創造機構のほうに事業の中身を委託するという事で、実際の主催者についてはこの関係で言いますと、国土交通省ということになります。

その目的ですが、ちょっとここを読ませていただきますが、大分県の国東半島地域と山口県の周南地域は、祝島の神舞等古くから海を介した交流の歴史がある。現在は、周防灘を介して一衣帯水の関係にある東国東地域と山口県周南地域を「周防灘30カイリ・潮の路交流圏」として位置づけ、周防灘フェリーを交通手段とする人や物の交流が行われており、特に地域づくりグループや女性、青少年の交流、情報発信の強化に取り組んでいる。本事業は、地域間交流や情報発信等をさらに推進するため、互いの地域への理解や共感を深め、交流人口を拡大するため、県境を越えた広域交流の推進と自立した地域社会の形成を図るものである、ということが今回の事業の目的ということになっております。具体的に、今回私どもが国土交通省から受託された内容については3つありまして、1番目が広域観光マップの作成ということで、これまで観光マップというのは例えば山口県のほうだったら山口県のものだけとか、大分県のほうだったら大分県のものだけということだったんですが、今回の広域観光マップでは、それぞれ周南地域、東国東地域をメインに据えた両方の広域観光マップというものを作成する予定にしております。これは、A1版ということですが、5000部ほど印刷するようになっています。2番目と致しましては、シンポジウムの開催というのがございます。これは、来年の1月中旬頃国見町側で開催予定

をしております。今のところ、参加希望が200～300名くらいということで、国見町役場の裏に『みんなかん』というものがございますので、そちらのほうで行いますけれども、今のところ徳山市さんのご協力もいただいているのですが、徳山側からは、交通の事情もそんなによくないものですから、20名程度は参加していただくというふうになっております。3つ目がこのワークショップの開催ということで、本日、徳山、また夕方には祝島のほうでワークショップを2度するようにしております。ワークショップというのは最近よく言葉として出るんですけれども、どういったことかという、地域おこしリーダーや地域住民等を交えて懇談会を開催して、地域の活性化や相互交流に対する意見や提言をまとめ、今回は特に来年1月に開催されるシンポジウムの冊子、これにある程度この場での意見が反映できればとそういうふうに考えております。

3ページ目は私ども大分県産業創造機構のご紹介ですけれども、一体どういうことをするところかと言いますと、一般的には中小企業支援組織なんですね。県の外郭団体ということで、中小企業を支援していくというのが主な役割です。その中に私ども研究調査課というのがありまして、上から総合支援課、地域産業育成課、そして3番目に研究調査課というのがございますけれども、こちらのほうで県の経済動向の把握とか、将来展望、あるいは地域振興に関する調査というものを担当しておりますので、今回こういった国土交通省からのテーマにつきましても、地域振興ということでございますので、私どもで受託させていただいておるといっていただけます。

それと、4ページ、5ページをご覧になっていただきたいんですが、今回のワークショップの日程表とその参加者の名簿でございます。本日、一応この場が第1回目のワークショップということです。夕方に祝島に渡りまして、祝島の地域づくりグループと懇談会を開催するようにしております。5ページ目が今回のワークショップの参加者名簿ということでございます。

2時間の会議の中で、短い時間ではございますけれども、なるべく有意義な会議ができればというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。それでは、次第にしたがって自己紹介ということでございます。

私、今自己紹介致しましたように、財団法人大分県産業創造機構の研究調査課長をしております、深田と申します。どうぞよろしくお願い致します。本日この会の様子を写真に撮ったりさせていただいて、光など気に障るようなことがあるかもしれませんが、私どもも受託事業でしているものですから、国のほうにこの会議の報告をしなければなりませんので、その記録用に写真を撮ったり致しますが、大変申し訳ございませんけれども、ご容赦をよろしくお願い致します。それでは、国東側の三浦さんからお願い致します。

三浦 三浦と言います。『東国東地域デザイン会議』というのがありまして、その会の会長をやっております。仕事のほうは小学校で事務をしております。学校っていう一つの立場を、こういう交流する、それから地域づくりっていう一つの部分に若干ズレもあるんですけども、こういうのを通して地域の中でやっていきたいなというふうに思っています。国東半島、ご存知の通り非常に過疎が進んでおりますけれども、何らかの良い方法がないかなということで、こういう研修会等を通して地域の発展に協力できればなというふうに思っております。今日はいろいろと皆さんよろしくお願ひします。

丸山 国見町の丸山と申します。副会長ということで参加したわけでありまして。国見町の地元で俗にいう村おこし、大分県の場合で言うと、村づくりグループ、村おこしグループというのを一つ持っております。それ以外にもいろいろやっておるんですけども、そのほうの会長も兼ねておるといようなことをございます。

仕事を見ると消防職員ということでございますので、水商売みたいなことなんですけれども、仕事場は地元国見町の、東国東全体で『東国東広域連合消防本部』というのがございまして、国見町にも出張所がございますので、そちらのほうに勤務しておるといようなこと。国見町に来られた時にはいつでも寄っていただいて。フェリー降りてすぐ役場に来ようと思ったらどうしても通らんといけん所がございます。私の前を通らんと、関所みたいな所でございますので、いつでも寄っていただきたいなというふうに思っております。

内容的には、一番私が身近に感じないといけんのかなというふうに思います。何と言っても徳山と国見町が一番近いわけでございますので、そういう意味では一番切実には思っておるようなところでございますけれども、なんか名案があればなと皆さん方のご意見を賜りながら考えていきたいなと個人的にも思っているところでございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

是松 こんにちは。私、国東半島の中の安岐町という所から来ました、是松と申します。安岐町は大分空港のある町です。

私はデザイン会議の会員ですが、安岐町の中で『明日を見つめる安岐21』という会をやっておりまして、そこで国東半島の1周トレッキング等をやっております。トレッキングを春、秋2回やっておりまして、今度の秋で25回を迎えることになりましたので、また皆さんも良かったら国東半島の安岐を歩いてみませんか。

昨日、瀬戸内女子駅伝というのがありまして、女子高の駅伝大会が安岐町でありまして、27チーム、山口からもサイキョウ高校がお見えになってました。

深田 私のほうから補足致しますと、『デザイン会議』というのは、皆さん、それぞれの町でのグループがありまして、それぞれでそういう活動をされているんで

すけれども、平成2年くらいにそういったグループを横断的にまとめるというか、連絡調整、コミュニケーションを図ろうということで作ったのがデザイン会議ということですので、基本的にはそれぞれ単層というか、それぞれの組織でご活躍をされている方だということでございます。では、徳山市側の方お願いします。

森山 久米地区の社協の会長をしております森山と申します。昨年度までは婦人会長と兼務しておりました、それで交流事業のほうで女性グループ交流ということで、国東半島のほうに行かせていただきました。そして、一泊で交流をさせていただいて、大変たくさんのことを学ばせていただいて、深い感動を受けて帰って参りました。

私どもでは今は、久米地区のことでみなさんに何かと思いましたが、資料を急にとということでございましたので、あまり資料がございませんのでこちらのほうにコミュニティーの1年間のコミュニティー紙とそれから社協の昨年のふくしだよりを一部差し上げております。

今、久米地区での地域おこしということで、いろいろ考えておりますけれども、まだ前に進める状態ではないのでございますが、しっかりと勉強させていただいて、これから役に立てたいと思っております。よろしくお願い致します。

福原 西徳山、ここは徳山の中心なんですけど、西のほうに新南陽を挟みまして、3地区、狭い所なんですけれども、湯野、苔谷、夜市っていう3地区がありましてその夜市地区から参りました、福原と申します。

私が所属している団体は、『西徳山まちづくりの会』というその3地区に住んでいるおじさんとおばさんが「自分たちの住んでいるところを自分たちの手で住み良いところにしようやあねえ」って言って作った団体でございます。

3～4年前、西のほうに、15kmくらい向こうに湯野温泉というのがございますが、そこで30カイリのワークショップを一晩泊まりで皆さんとさせていただいた時に、参加致しまして、すごく楽しかったのを今でもよく覚えております。その時に「姫島の車エビはおいしいからぜひ食べに来てください」と言われて絶対行きますと言ってまだ実現しておりません。ちょっと今それが心残りしております。そういうことで参りましたけれども、よろしくお願い致します。

藤井 藤井と申します。今回は『周南ジャグリングクラブ』ということで参加させていただいております。名称の『周南ジャグリングクラブ』というのは、この3月に名前を変えたんですけれども、その前は徳山市の50周年の手作り記念イベントということで公募がありまして、その時に『イベントお助けパフォーマンス隊』、あちこちイベントに参上して盛り上げちゃいましょうということでピエロになったりといろんな活動をする中で、その年は徳山市限定だったんですけれども、いろんな所から声がかかるようになりまして、名前も徳山じゃなく

て周南にしよう。大道芸ということでジャグリング含めてそういう名前をしています。この土日ほとんどどこかに出てまして、来週は福原さんの所、その次は夢風車まつりとかですね、ほとんどどこかでピエロになっております。よろしくお願い致します。

深田 今回、本当に期間が短くて、みなさん、参加者の方をお願いするのに特に徳山市役所さんには大変ご迷惑をおかけしていると思います。今日は徳山市役所さんの方からご担当の行富さんがいらっしゃっているのでご挨拶をお願い致します。

行富 どうもはじめまして。私、徳山市役所の企画調整課の行富と申します。よろしく申し上げます。

私は去年までは税務課というところにおりまして、今年から企画調整課というところが変わって参りまして、こういった県際間交流事業という担当を与えられまして、やっております。

それまで、正直、大分と周南地域とがこういった結びつきに関して、一衣帯水ということの一つの周防灘というところを介して、近いところにあるんだということを改めて知ったというか、地理上はそういう位置にあるのは知っているんですが、改めて言われるとなるほどそうだなということを思いまして、歴史も紐解いていけば、姫島産の黒曜石であるとか、石器時代のやじりといったものがオオツ島というところで発掘されたりだとか、船の航路も大正年間から新しくできたとか、ということを知りまして、非常に古くから交流があるんだなと思っております。そういった先人の方たちが今まで絶やすことなくやってきた交流をこういった会を通して、人口交流をはじめ、まちづくりという文化交流という観点からもいろいろ交流を深めて行くお手伝いができればと思っておりますので、ひとつよろしくお願い致します。

深田 よろしくお願い致します。それでは、先ほどから料理の方が出ておりますけれども、ここでお食事をとっていただきたいと思っております。15分くらい、次の開始が12時30分くらいを目安に、どうぞお食事をとっていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

丸山 今日は、周防灘フェリーで2時間かかって徳山に来たんですが、その昔徳山に彼女がいた頃、よくフェリーで徳山に来ていたんですが、その時の2時間と今の2時間では、昔の2時間の方が早く感じましたね。今日は、2時間が結構長くて、途中で寝てました。フェリーのスクリーンを倍に上げて、1時間で行ってくれんかなと。そうすると、もう少しみんなの考え方も違うのかなと。だって、2時間あったら東京着いちゃいますよ、大分空港から。

森山 今、そのくらいというのをすごく言われてますけど、2時間はやっぱり大事な時間かもしれないですね。間にいろんなコミュニケーションがとれたりとか。

- 福原** 私たちの世代が、大分の方に行くとして、フェリーを利用するとしまして、今、丸山さん、森山さんも言われましたけど、逆に2時間のゆったりした時間も含めて、国東半島を見ようという思いで行きますので、すごく急ぐ旅であれば、車で行くとか、新幹線でまわって行くとか、今、結構大分まで近いですよ。大分道もありますからね。車で行っても近いですよ。
- 丸山** そうですね。車の方がいいのかなという感じはしますけど。周防灘を行った方が早いと思いますけど、車の方が早いなと思う感じはするでしょうね。
- 福原** あそこに船で上がってから、ずっと国東半島を含めて大分とか玖珠とか日田のあたりとかにすごい温泉いっぱいあるじゃないですか、いいのがね。だから、あのあたりはすごく私大好きでよく行くんですけども、みんな車で行きますよね。
- 丸山** その割には、竹田津のフェリーのところはあんまり、こう、ぱっとしてないけんね。もうちょっとなんかないんかえと思いますが。竹田津のフェリーが着いて、駐車場のすぐ上が、家内の山なんやけど、ちなみに。
- 福原** うちの子たちっていうか、若い世代の子たちにとって、30カイリって近いじゃないですか、よく晴れた日には見えるかもしれないっていう距離なのに、九州って言ったら博多とかの方が自分たちには近いっていう感覚を多分持つてると思いますよ。
- 丸山** イメージがね。
- 福原** ほんとは目の前にあって一番近いんですけどね。
- 丸山** すごくばかばかしいこと考えたんですけど、たまたま、うちのフェリー乗り場の上の山は、まあ、家内のうちなんですけど、山がありますんで、その山のてっぺんで、火を燃やそうかと、のろしをあげようかと思って、そして徳山の人が見えるか見えないか、で、見えたら徳山の人ものろしをあげるっていうばかばかしいことを言いかけたことがあるんですけどね。とりあえず、国東半島でのろしがあがってるのが徳山から見えるかというそんなばかばかしいこと考えたことがあるんですがね。
- 福原** ばかばかしいって言ったら、さっき私が言った、湯野温泉でワークショップを行った件なんですけど、どなたか参加された方いらっしゃいますか？
あの時ですね、ワークショップをしたんですよ、何班かに分かれて。その時に、どこかの班が徳山周南部と国東半島で共和国を作ろうって言うんですよ。ひとつの国を作って、国の収入はどうするかって言ったら、ここを通る船から税金を取ろうって言って。独立国を作ったらおもしろいかもしれんっていうワークショップをしたんですけども。みんなにすごい受けてましたけどね。市長がいきなり大統領であり王様でありみたいなかんじで。やっぱり、いろんな話をしてみると、近いんだけどそんなにお互いに知らない部分ってたくさんありま

すよね。

丸山 そうなんですよ。

福原 私、国見って言ったら高校サッカーの強いところかと思ってました。

丸山 みなさんそうなんですよ。ほんとに、国見って言ったら、サッカーですから言われますよ。全然関係ないんですけど。

三浦 今度、さっき安岐の是松さんが言ってましたけど、トレッキングが11月の終わりにあるんだけど、トレッキングっていっても、お寺とか名所に行ったり。

是松 お寺で泊まったりして。一日はお寺に泊まるんですよ。日本三大文殊のひとつ、『文殊仙寺』っていうところに。さっき言ってたんですけど、船の使い方というか、使う人によるっていう話ですが、徳山に買物に行こうかなと思ったら、1時間くらいでもいいし、ゆっくり旅行を楽しむ人だったら船旅を楽しむというか。

福原 あんまり船で行ったことないですもんね。

丸山 まあ、若い子が買物するなら博多がいいやろうし。『キャナルシティー』とかに行ってお茶飲んで、おいしかったよとか言ってますもんね。

是松 徳山から福岡の方へ行ったりするんですか。

福原 若い子は買物に行きますね。

三浦 意外やな。そんなもんなんですかね。

藤井 行きますね。私も家族で小倉とか福岡はよく行きますよ。『ちゃちゃタウン』とか。

福原 小倉の『ちゃちゃタウン』ですね。

藤井 車で1時間ちょっとなんですよ、小倉まで。広島行くと、ちょっと頑張ればと行った感じで。

森山 バスとかもありますしね。

福原 『ちゃちゃタウン』、テレビで見たら大きかったけど、行ったらそんなに大きくなかった。

藤井 そうなんですよ。

福原 私、子どもが、長男が今小倉で仕事してまして、次男が博多の大学行ってるんですよ。だから結構あのへんはしょっちゅう行く機会がありまして。私個人的にはさっきも申し上げましたけど、大分道を通ってあっちが好きなんですけどね。みなさんのお家の近くが好きなんですけど。

この前、ちょっとしたイベントがありまして、全然西徳山とは関係ない、知合いの人がそこで、なし、ぶどうを売るっていうので「ちょっと暇だったら手伝って」って言われて、なし、ぶどうを売るアルバイトに行ったんですよ。たまたまそこにいらっしゃった方が、「実家は九州なんです」って言われたから、「九州いいですよ」っていう話をして、そしたらその方が日田の方だったんです。

たまたま私、1週間前に日田に行ったんですよ。その時にお昼ごはんを食べに行ったら、すごく安かったんですよ。もうこの値段だったらこのぐらいのものしか来んかなと思ったんですが、すごくいっぱい来たんですよ。それがすごく、まあ、主婦ですから、安くておいしかったって言うのがすごく頭の中に残ってましてね。「九州って、おいしくて安くていいですよ」って言う話をしたら、「九州よかでしょう」ってすごい言われてですね。「九州どこに行ってもよかですよ」とかってすごく言われましたけどね。

三浦 そんなに違うんかな？

丸山 どうかな。日田が安いって言ったら、日田は高いんですけどね。どっちかって言ったら高いんですけどね。

福原 徳山は物価が高いんですよ。

三浦 そうなんですか。

福原 そう思います、私。

三浦 そうなんだ。

福原 こんなこと言ったらいけんのですけど。

三浦 あんまり、こう、変わらんようなイメージがあるけど。

丸山 食べ物とか食事とか結構高い。

三浦 そう。

丸山 まあ、湯布院あたりは高いけど。トップは湯布院でしょう。

福原 湯布院はもうやっぱり高いですよ。

森山 湯布院はなかなか高くて、私たち世代の夫婦で泊まろうと思ったら高くて。

三浦 夫婦だったらどうなんだろう。

丸山 地元でも、三浦さんがいる国東町にある旅館なんかはそんなじゃないと思うけどね。

三浦 夫婦で1人1万円くらいやろう。

丸山 いや、中には8千円くらいのところも、安くて6千円くらいやと思うけど。

深田 では、すみません、お食事どうぞ続けてください。私の方で説明だけ、どんどんしていきますので、お食事はどうぞ続けてください。限られた時間の中ですので、一応時間通り進めさせていただきますけど。

先ほどの資料は、6ページ、7ページをお開き願いたいんですが。国見と徳山間の交通事情等について、6ページの方、絵のほうをご覧になれば大体分かるかと思えますけれども。

まず、国見～徳山を想定した場合に、フェリーを利用した場合の時間と経費ということですが、フェリー、待ち時間とかそういうものを除きますけれども、接続は除きますが、2時間ということですので、この時車利用、いずれにしても車1台利用して1人が行くという計算ですけれども、2時間で

経費がフェリー代ということで、大体普通車で5m以内くらいなんです。そうした場合に、大体11,500円というのが、ストレートに国見から徳山へ行った場合に、片道大体この程度の経費になります。

では、国見から高速道路等を使って徳山まで行った場合には、推定時間3時間40分くらいかかるんじゃないかと。高速道路料金、これが大体7,800円程度かかるんじゃないかと。ガソリン代が大体2,730円かかると。合計が10,530円ということなので、国見～徳山間車1台1人で運転して行った場合に想定される、費用的なものはどっこいどっこいかなと思われ。ただ、時間的には2時間、しかも運転しないので運転に伴う疲労というものが無いで済むというようなメリットはございますね。

次の、宇佐～徳山の場合、なぜ宇佐がポイントかと言うと、宇佐は東九州自動車道の接続ポイントになるものですから、宇佐っていうのが大きなひとつのポイントになってくるわけですね。宇佐から徳山まで、フェリーを利用した場合、大体2時間50分くらいかかるだろうと。フェリー代がやはり11,500円、ガソリン代が280円程度かかりますが、11,780円。宇佐から高速を利用した場合、やはり2時間50分くらい、費用のほうは高速道路料金とガソリン代ということで、10,180円ということ。ですから、宇佐をポイントに見た場合は、時間的にはフェリーと高速道路、大体同じくらいになります。経費のほうも、1,600円くらいの差が出るようには思われませんが、そんなに大きな差ではないんじゃないかとということになりますと、車を利用したほうが便利がいいのか、あるいは車を使ったほうが逆に疲労とかあるので、どちらをとったほうがいいのかということになるわけですね。宇佐市の場合です。ですから、宇佐がポイントになりますから、例えば宮崎とか、もっと九州の南のほうからずっと東九州自動車道を上って宇佐まで来たときに、運転してるドライバーが高速道路で徳山の方面に行こうと考えるか、フェリーを使って行こうと考えるかの違いですね。どちらのほうが便利か。しかも、通常、車に1人っていうことはあまり想定できないですね。家族が2、3人とかですね。そうした場合に、そのへんの経費がまた全然変わってきますとですね、車の場合ですと、そのまま乗ってたらただですからね、家族の分は。ただ、フェリーになると、ドライバー以外の人には全て乗船賃がかかるということになりますので、宇佐、いわゆる自動車道の極点というかポイントの宇佐あたりを考えると、やはり車のほうが有利じゃないかというような状況にはあるわけですね。

7ページが最近の周防灘フェリーの状況ですね。細かい数字については、あまりデータを出しにくいということで、大体の概数で出しております。そう致しますと、ひとつひとつの数字よりも下のグラフのほうを見ていただくと分かる

ように、大きく人員が減ってきているということがお分かりいただけるかと思えます。その主な要因は乗用車とか、特にバス、先ほど修学旅行とかいうお話もありましたけれども、人を多く乗せるバスとか、バスは、ここ平成6年から比べるだけで11年まででマイナス51.3%ともう半分になっております。乗用車も12%ぐらいの減と、今なんとか数字があまり変わってないのは、トラックですね。トラックはそんなに変わってないということですね。このあたりがあります。これまで、周防灘フェリーは平成3年くらいがピークで平成3年のときには大体20万人の乗車人員がいたんですね。乗船人員というか。それが今、11年で見ても、もう10万人ということで、ピーク時に比べると、半分ぐらいになっているわけです。なかなか運営のほうもかなり厳しくて、赤字というか。あまりこのへん私のほうから申し上げられませんが、かなり厳しい運営状況にはあるということでございます。

8ページ、9ページは、若干この両地域のデータを比較してみました。数字上から明確になんだかんだということはないんですけども、国東地域についても、人口については、国東が、国見、姫島、国東、武蔵、安岐と5つあるんですけども、1995年から2000年に5年間の総数のところで、武蔵町、安岐町、このあたりは数的には伸びてるんですね。これは、住宅の開発とかそのへんがかなり効果があって、いわゆるベッドタウン化、かなりしてきてるだろうということですね。いずれにしても、高齢化というか、65才人口、これについては顕著にどこも伸びてきていると。若い家族なんか増えたようなところは若干人口が鈍化して伸びてますけども。かなり高齢化が進んでいるということは言えると。

次に、産業別人口ですけども、これもかなり三次産業にシフトはしてきているということですね。一人あたり生産額というのを下のほうにのせてますけれども、これはあくまでもその年の総生産を単にその人口で除したものですから、実際に昼間の人口と夜間の人口は違うと思いますね。やはり昼間は徳山市さんとか新南陽市さん、こういったところは昼間人口が多いんじゃないかなと思うんです。ですから、実際に昼間の人口で割れば、総生産は若干下がってくるのかなというふうには感じます。いずれにしても、大分県のほうは県全体を比較しても、若干山口県さんのほうが一人あたりの総生産は多いのかなという状況にはありますけれども。

9ページの表は年齢別の人口のそれぞれ、特に周南地域といえますと4市4町で8個あるんですが、資料を掲載する関係で、来年の4月21日に合併する周南市を取り上げて、その2市2町を掲載しております。やはり、どうしても国東半島、半島地域ということで、かなり高齢化が進んでいると。ただ、今日夕方から行く、上関町の祝島、あちらの方はそれよりももっと、かなり島自体だ

ったらもっと大きいかなと高齢化は、そういうふうに感じております。一応、9ページ、そのようなことです。

10ページ、11ページもご説明をしておきます。先ほどから、東国東地域と周南地域の交流事業のことについて、若干いろいろ触れられた部分がありますけれども、これまで、両地域が地道に交流活動を続けてるわけなんですね。それで、ここの部分について若干ご説明いたします。

まず、『徳山市制65周年記念イベント』ということで徳山港のイメージアップ大作戦に参加したと。これは平成12年度ですね。これは、主体は国見町さんが行っております。

次に山口県の『徳山市ふれあい交流事業』ということで、これも『宇佐国見道路高規格道路建設促進期成会』というところが毎年度実施しているようです。ちなみに、『宇佐国見高規格道路』というと、先ほどの6ページ見ていただくと分かるように、国見～宇佐間が50分とか書いてますけども、これ今、一般の道路があるわけなんですけれども、ここは高規格道路を作ろうということで、もしそれができればここが大体25分くらいになるということで、今一生懸命そういう活動を展開してるんですが、ただあくまでもこの事業のポイントになるのが周防灘フェリーなんですね。周防灘フェリーの利用があって初めてこの道路が生きるということなものですから、今のようになんてだんだんやっばり周防灘フェリーの利用者が少なくなってくると、なかなかこの理屈立てというのが無くなって、地元の経済には非常に大きな影響があるというふうにかえられます。

次に10ページに戻りまして、3番目の『山口きらら博視察研修助成事業』ということで、国見町の方から阿知須町できらら博がここで開催されたんですかね、を、見学に行く住民団体に対する助成金を交付したということ国見町さんが行っておりますね。『きららカップ少年サッカー交流大会』ということで、これは山口県さんの方の『周南地域の各商工会議所』が実施して、山口きらら博会場での少年サッカー交流大会と、大分県から2チーム、山口県から4チーム、と元Jリーグ選手によるサッカー教室を開催したということでございます。次に、『青少年地域間交流事業』ということで、『青少年地域間交流事業実行委員会』という組織が12年度13年度、山口県の阿知須町と安岐町の中学生によるホームステイ、キャンプによる青少年交流を実施したということで、それぞれの場所で行っております。

次に、『九州瀬戸内高等学校女子駅伝競走大会』と、先ほど、是松さんのほうからお話のあった内容のものが、毎年度実施されているということですね。

『山口県周南地域旅行エージェント対策事業』ということで、これは『仏の里くにさきふれあい観光振興協議会』というところが毎年度実施しておりますけ

れども、山口県の徳山市の旅行代理店への観光宣伝とか、国東半島スタンプラリーの台紙と観光パンフレットの配布をしております。

最後がですね、『周防灘30カイリ潮の路県際間交流事業』ということで、これは『豊の国適正共生社会づくり推進事業』というふうに題してるんですが、東国東郡の各町村、あるいは『周南広域市町村圏振興整備協議会』というところが共同で毎年度やっているものでございますけれども、平成12年度には国東半島の『地域づくり女性グループふれあい交流会』ということで、両地域の地域づくり関係女性団体が一同に会して、講演会、実践報告、夜なべ交流を実施したということでございます。番目が、『国東半島中学生ふれあい剣道交流会』と。両地域の中学生が剣道を通じた交流を実施したということでございます。で、平成13年度には、一番で『スポーツ少年団等小学生交流会』ということで、両地域の小学生によるキャンプ交流、平和学習、きらら博の見学を行っております。で、二番が『東国東・周南地域ふれあい少年剣道交流会』ということで、両地域の小学生が剣道を通じた交流を実施しております。

以上のように、これまでもずっと地道な交流活動が行われておりまして、今回のこのワークショップも、特に『周防灘30カイリ潮の路県際間交流事業』の中の一環、本年度の事業の一環ということで、これは特に国の予算を使ってというか、国に要請して行われているものだというふうな位置付けですね。それと、今日夕方から行く祝島、なんで祝島に行くのかということになりますと、『神舞神事』を通じた交流が国見町のほうとここ千年に渡ってって言っていいんですかね、千年に渡って行われているということから、祝島のほうにも行って、地元の方々と交流しようというふうな計画にしております。一応、私の方から若干のご説明をさせていただきましたけれども。

それでは、ワークショップ進行次第の4番目ですね、一応ワークショップなんで、形を、ほんとはあまり形にとらわれないで、ざっくばらんにお話ししていただいてもいいのですけれども、一応そういうふうなプログラムに従った部分も必要だということで、続けさせていただきますけれども、それでは、参加者のそれぞれの地元での活動内容ですね、先ほど、自己紹介のときに若干それぞれ触れられてると思うんですけれども、ちょっとそれを深めてのお話ということをしていただきたいと思いますので、まず、国東のほうから。

是松 私、安岐町で『明日を見つめる安岐21』というのをやってます。トレッキングをやっているんですが、私たちがトレッキングのマップを作って、毎年春と秋、2回やっております。大体いつも40名くらいの参加がありまして、東京とか新潟とか少しづつ遠いところからも来るようになりまして、多いのはやっぱり熊本、福岡、宮崎、そして大分県になります。

もうひとつ、『梅園の里』というのがありますが、それが僕たちの話の中から、

研修センターがほしいなということで話からできたものなんですが、平松知事がこれに輪をかけて大きくしてしまったものですから、後、維持が大変なんですけれども。

一日目はそこを使おうということで、二日目は先ほど言いました、日本三大文殊のひとつの『文殊仙寺』で泊まって、その和尚と一緒に夜なべ談義をしながらその和尚も酒が大変好きなものですから、夜中まで飲み明かして。国東半島もここから見ると結構山の形が起伏に富んでると思うんですが、歩いてみると山は低いんですが、結構起伏に富んでみんな喜んで帰ってもらってます。毎年、ひいきの方ができまして、毎年来てくれて、僕なんかより国東の山のことに詳しい人がいっぱいできまして、だからあまり変なことは言えないんですが。それから、僕なんかのグループがおもにやってるのは、安岐町であるいろんなイベントのバックアップとかやっております、おまつりのない地域におまつりを持ってきて、その人たちと一緒にやりながらその人たちにじわじわそのまつりを行って行くというか、そのようなことをやっております。

深田 何か、トレッキングでお聞きになりたいことがあれば、どうぞ。

是松 今年は、11月の22、23、24、ですかね、金、土、日、でやるようになっております。もしよろしければ、役場の方にでも言っていただければ、それが、私の方に言っていただければ。

福原 これは、事前に申込をするんですか。

是松 そうですね。宿泊場所を確保したりするのがありますから。

福原 じゃあ、いっぱいになったらもうだめですってことなんですか。

是松 まあ、どうにかみんな協力して、ちょっと部屋をこう多めに。

福原 すし詰め状態で寝るとか、山小屋みたいに。

是松 まあ、お寺で寝るときはほとんどそういうかんじですけど、みんなで布団しいて、朝のお参りして、般若心経あげて、その知恵の水を一杯飲んでから、朝ご飯につく、ということになってますけど、前の日のというか、その日の朝早くまで飲んだお酒が結構。

三浦 女性の方はあんまり気にせんでもいいけどね。男性はもうどうしても、本堂かどこでもどうぞ自由に休んでくださいってなりますので、女性はちゃんと部屋を確保するように。できれば、そういう部分からでも、なんかね。毎年、春と秋とありますんでどちらかに参加というか。

是松 これから、紅葉がきれいですから。

福原 そうですね。これって費用的にはどのくらいなんですかね。参加費というか。

是松 2泊3日で2万3、4千円だったと思います。ちょっと詳しくは、事務局のほうに聞かないと分かりませんが。ただ、全部昼もついてます。初日だけは、弁当持参になりますけど、その日の夕食からずっともう全部。そして、国東半島

はお接待という風習がありますので、途中で『お接待』をみんなに出したりと
かして、いろいろ今考えてるんですけど。

福原 懐かしいですね、『お接待』って。私、あれすごく楽しかった、うれしかったで
すね。小さい頃、おばあちゃんとかによく連れてってもらって、豆ご飯とか、
お菓子とか、ですよ。

是松 だから、あの時はもう家族連れでみんな動き回るから、人口が倍になったよう
なかんじがするんですよ。人が動き回るから。5月くらいになるのかな。

丸山 旧暦の4月終わりくらいですかね、今でもやっていますよ。

是松 『デザイン会議』では、国東半島を使って、杵築からの自転車のレースをやっ
てるんですよ。『センチュリーラン』って『100マイルレース』って形にはな
ってるんですが、そのコースの中に何コースかありまして、僕なんかは国東の
ほうで、お接待というか、団子汁を選手たちに300人くらいの『お接待』を
してるんですよ。だから、予算が2、3万で300人分作るから。結構好評で
やっております。

福原 あの、『お接待』っていうのがすごくうれしくて楽しいっていうのをやっぱり今
の子どもたちにすごく伝えたいですよ。私すごくそう思います。

是松 今、結構子どもなんか、みんな袋持って、いっぱいお菓子持って帰るんです
けど。

福原 私も袋にいっぱいたまっていくのがすごくうれしかったですけど。

丸山 将来的には私も『お接待』って言うのは非常に大事にしたいんで、ゆくゆくは
『お接待マップ』を作りたいなとは思ってるんですよ。で、4月何日に、地図
に落として、どことどこと、まあ、家で作ってるるところと、もう場所が決まっ
てるところとありますんで。毎年毎年『お接待マップ』みたいなのができれば、
おもしろいのかなというふうには実は思ってるんですよ。結構うちの町内『お
接待』、はやりということはないんですけど、ずっと盛んなんで、ご飯のところ
もあれば、お菓子のところもあるし。

是松 そうすると、地域のコミュニケーションがまたできると思うんですよ。

福原 そうですよ。準備する段階から始まりますもんね。

是松 そして、子ども同士のネットワークっていうか、連絡網がすごい、あそこにあ
るぞとかね。

福原 それは楽しいですよ。

是松 あそこはいいのがあるとかね、早く行かんとなくなるとかですよ。

丸山 最近の子どもは、うちの子どもなんか自転車に乗ってですよ。

是松 だからほんと、みんなで情報交換っていうか、いいコミュニケーションがとれま
すよね。だから逆に、出すほうも出すほうでまた話し合っ、今度こういうの
出したいなとか、そういうちょっともう一線を引いた人なんか茶飲み友達み

たいな人たちが一部屋、店の空いてるところなんか使って。そこでまたコミュニケーションができていいんじゃないかなと思いますけど。

深田 では、丸山さんの方からお願いします。

丸山 私のほうから、それではもう順繰りに行きましょう。折角、観光パンフを持ってきましたので、これをまず最初に見てください。実は私のひとつの役っていうか、会長してるのが、『923(クニミ)じゃあねえ会』っていう会があります。『クニミ』は『923』と書きます。語呂合せです。『じゃあねえ』っていうのはああじゃあねえ、こうじゃあねえっていう方言の会なんですけれども、そのグループの一応会長をしてるというようなことなんです。以前にもこの地図、見開きで地図を見られたらちょうど対面が姫島というところがあるんですけれども、以前はここで、国見から姫島までイカダを作って渡ろうということで、当初30万円ということで、実は私が主催でやるって言ったんですけれども、資金なんかは途中で8回で挫折したんですが、最近、もう一回やってくんかっていうようなことで、再開を催促されるケースが非常に多くございますので、そういうことなんですけれども。グループそのものは残ってまして、そのちょっと右のほうに『ペトロカスイ岐部』とかいうのがありますね、『ふるさと展示館』というのが大きな館でございますけれども、ここでちょっといろいろ、つい先立って、9月23日、9月23日といのは『923』で『国見の日』なんですね、で、いろいろしようということで、展示館っていうのは町が運営してますんで、そこでライトアップをしたりとかいうことで。先ほど言いたったように、5月には『お接待』を、去年は都合が悪くてちょっと出せなかったんですが、ずっとお接待を5月に出してます。大体1日に来る人が千人前後、ということで『お接待』をずっとやっておるところなんです。今度みなさん方シンポジウムをやるのは、国見町の『みんなかん』というところなんです。クリスマスにはイルミネーションみたいな、去年から実はイルミネーションやろうということでしております。今年もまたイルミネーションやろうじゃないかというようなところでもあります。町内見ると、いろんな、結構うちの町内はよそから来た人とかいうのが結構いるんですね。イラストレーターがいたりとか、木工屋がいたりとかですね。なんで国見町がいいのかよく分からないんですけれども、住んでる人間はあんまりいいなと思ってないんですけれども、住んでない人間からするとすごいいいなと。

福原 私、テレビで見ました、見ました。そういうのやってるの。

丸山 それで、『涛音寮』って言って、そういう展示をする場所もございますので、そこに行くと盛んですけど。ひとつのグループではそういうふうになってます。もうひとつの役職というのが、役職ということはないんですけれども、実は私は体育指導員をしてまして、たまたまというか、今、会長とすることでやって

ます。ご存知の方はご存知なんですけれども、『相互型地域スポーツクラブ』というのを今立ち上げようとしています。そうした形で、プレイベントということで今いろんな活動を。去年から実は、国庫補助金をもらいながら3年計画ということでやっています。その中で、皆さん方に直に関係あるっていうか、これから先も大きく投資できるという部分は、『スポーツツーリズム事業』というのを実はやっております。やはり、『グリーンツーリズム』ということで、非常に言葉がとんでるんですけども、そのスポーツ版とっていただければよろしいかなと。その事業で、私どもが認めれば、体育施設を貸すという、ほとんどやらなんですけれども、それとか、宿泊施設が安く、格安でできるとか。それで、ひとつ、国見町で、みんなそうだと思うんですけども、研修センターというのを持っています。今改修中なんですけれども、そういったところを安く宿泊できたりとか、利用できたりということですね。ただ、『スポーツツーリズム』ですから、何か交流をしてもらわないけんという中で、子どもさんでしたら練習試合をしてくれたりとか、学生さんでしたら指導の何かの教室をしてくれたりとか、というようなことでお願いということで。とある大学、今年の春なんですけれども、とある大学の卓球部が来まして合宿をしてきて、卓球教室ということで、老若男女、小学校の2、3年生から、上は80いくつのおじいちゃんおばあちゃんまで来て、教室を開きました。そこの大学の監督さんっていうのが、昔中国ナンバーワンの方が監督されてる非常に人気のあるのでたくさん見えられました。人気があろうとなかろうとなんですけれども、そういった形の交流も大事なことかなということで、たまたま私がそういう立場にいたということで、新たに始めようということで、今やってる最中です。私の町っていう逆に事例なんかいいことをやれば、なんか声がかかって、なんかかかわりを持たないといけんのかなということなんですけれども、要は、僕がコンセプトに持っているのは、自分が住んでる町だから、自分が生きてく中で、楽しく生きていきたいなと、せこせこ生きてもしょうがないなと、自分がやりたいことやって、自分が面白く生きて行ければそれでいいんじゃないかなというのがあります。それで、お願いをして、この『みんなかん』で来年1月のシンポジウム、『みんなかん』のパンフを見ていただきますと、この中の一番端、ここには『村づくりの館』ということで、24時間開放オッケーという部屋も実は作ってあります。ここも、お願いをして作ってもらったところなんですけれども、普通はこの『みんなかん』っていうのは公民館的なものなんですけれども、ホールもついてますけども、それは普通に鍵が掛かっています、時間が来るとですね。でも、そこの一部屋だけは外から鍵が開きますので、24時間トイレもあれば、給湯室もあるということで、24時間フルで使っているよと、夜なべ談義であろうが何であろうが、24時間話し合ってもいいし、

というような部屋をこの中でちょっと特徴的に作ってあるところなんです。まあまあ新しくて、ちょっとキャパが小さいんであれなんですけれども、作る段階から関わらせていただいて、いろんな部屋を作って、こんなしたらいいってということで、みんなの声を反映して作った品物ということで、一度来ていただいて、見ていただくと非常におもしろいのかなというふうには思ってます。ということで、よろしいでしょうか。

森山 学習室の使用料が1,000円ということですが、市民館だったら300円くらいですけどね。

丸山 これで、一応の使用料なんですけれども、使用料金は公的機関とかそういったことであれば、ほとんどちゃらですね。免除がきくんですよ。だから例えば、こういったグループで何かするって言ったらほとんどちゃらですね。要するに、儲かるような商売は、営業目的でやってると免除はできないんですけれども、そういった形のものであればほとんど免除なりできます。それで、私どもいろんなことやるときはほとんどちゃらですね。

結構、スペース的に、スペースの中でいろんなことしようと思ったら、相当無理が、設計上無理が来てるんですけれども、お金も無い中どうしようかということで、多目的に使えるようにするということで、かなり詰めこんだ内容にこの建物的にはなっていると。たまたま建物を作ろうと言ったときに、この作る審議の中に私もいたんですけれども、逆に言うと、この建物を作る、どうしても消防の方でこれを審査するのがあるんですけれども、そのために、今自分の地元に戻って仕事してますけれども、私の方は消防本部というところにいましたので、そっち側からも関わったというようなことで。

森山 町に生涯学習センターがあるというのはすごいですね。やっぱりね。

丸山 なかなかこの、入れ物はできたんですけれども、魂がなかなか入らなくて困ってるんですけれども。

福原 この愛称はどうやって決まったんですか。

丸山 これ、公募です。『みんなんかん』は、『みんなんかん』ってこれはなってますけれども、今度、私が先ほど言った、『相互型地域スポーツクラブ』の名前が『みんなんくらぶ』ということで、仮称なんですけれども、来年の4月くらいに正式発足の予定なんですけど。まあ、そういったようなことです。

深田 国東の方は。

三浦 国東というわけではないんですけれども、2人はそれぞれ地域づくりグループの会長とかをされてるんですけれども、私自身はそういう会に所属してなくて、『デザイン会議』だけに所属しているというようなかんじなんですけれども。まあ、全体的なところで、今日は私は国東の代表ということで、国東町のパンフレットを持って来たんですけれども、国東半島はみなさんもお存知かと思い

ますが、新鮮な海の幸というのがメインじゃないかなとそういうふうに思っております。先ほど言われましたけども、国見はたこ飯で結構売り出しているような部分もあります。国東は太刀魚、それと、フグも専門にやる料理屋さんもあります。そこは、私もちょくちょく利用するんですけども、8,000円から10,000円でフルコースが食べられると。それから、僕はもうそこで食べるんじゃなくて、料理を持ち帰って、自分の家で準備したりとか、それの方が安く上がるというか、4人前作ってもらったら、15,000円くらいであがるだろうという、そういう店もあります。ぜひ、来ていただきたいなというふうに思っております。

国見の方は先ほど言われてましたけれども、『みんなかん』というような素晴らしい建物が昨年、国東の方は『アストくにさき』と言って、30数億かかったような文化ホールを作って、それが非常に物議をかもし出しているのが現状です。というのは、町財政が逼迫している上にそれを作ったものですから、非常に賛否両論いまだに続いているような状況です。私自身もそういう建設のときに関わらせていただいたんですけども、なんせいなかですんで、大きい建物、いわゆる1,000人規模とか、1,500人規模になると、建物の経費も当然かかるんですけども、それに参加する人が少ないっていうんですかね、やっぱりどうしても高齢者等が多くなると、そんなにもう金出してまで行かんでもいいというような状況が生まれてきて、空席が目立つと悪いから、どうしてもそこらへんの難しい部分が出てきて、大体、800人くらいの収容能力を持つことになったんですが。そこで、これから先、続けていきたいなというのがあるんですけども、『演劇祭』というのをやるんです。去年がプレというか前段で、今年から正式にやりましょうということで始めたんですが、なかなか宣伝が上手く行ってない部分がある関係で、ぜひ徳山等でそういうふうに演劇をやっているようなところがありましたら、参加していただきたいなというふうに思います。そういう部分を宣伝して行かないとなかなか難しいかなと思っております。

それともう1点は、文化庁の補助金でできました『やよいのムラ』という、弥生時代の遺跡を復元した部分なんですけれども、そういうのもあります。今、国東半島の中で総合学習というのが学校の中で言われておりますので、そういう部分で利用しているというような形です。このパンフレットの右側の方ですかね、『やよいのムラ安国寺集落遺跡公園』というのが入っておるんですけども、ここの館長さんが同じく『デザイン会議』のメンバーということで、宣伝をしてこいというようなことですので。いろいろイベントを考えてるんですけども、なかなかそこまでは行ってないというような状況なんです。『やよいのムラ』に相応しい事業、イベントができればいいかなというようなかんじで

す。昨年は、フルートとオカリナの奏者等と呼んだりとか、そういうような感じでイベントを少しづつやっております。

それともうひとつは姫島ですね、山口県は『山口防府マラソン』がありますよね。私も3回くらい参加させていただいたんですけども、国東も先ほど是松さんが言われましたように自転車の大会が5月の3日にありまして、大体1000名近く来て。それで、姫島はここから近いんですけども、トライアスロンがあるんです。ちょっと距離が短いので、初心者なんかにはちょうどいいかなと思うんで、そういう部分にもぜひ参加していただければいいかなと思っております。

私、子どもが小さい時、徳山の動物園に何回か通ったことがあるんですけども、すごく良くて、ちょうど私たちが行ったのは5月くらいだったんじゃないかな、公園のスケッチ大会かなんかをやってるのに出くわしたんで、徳山の動物園をぜひ大分県のほうで宣伝をしていただけると、またフェリーの利用も増えるんじゃないかなという気がします。ぜひ、お願いしたいなと思ってます。

福原 10月の2日、8日だったかな、スケッチ大会。

深田 どうもありがとうございます。今聞いてまして、皆さんに一生懸命セールスしていただけてるじゃないですか。町長さんが聞いたら、泣いて喜ぶと思いますよ。国東側からのそれぞれの活動内容をいただきましたので、森山さんのほうからお願いできますか。

森山 うちの方は、活動というのは、私は久米地区の社協の方をしておりますので、特に活動というのはしてないんですけども、最近では、ここの文化会館のグレードアップっていうんですか、放送機器なんかを一新しましたので、中国地方では有数、1、2位を争うぐらいの音響設備もできていまして、いろんな催し物があっても対応できるくらい。それから、NHKのなんかありましたね。あのときも大変誉めておられたというくらいに、音響設備のいいところがございますので、いろいろな催し物があるときはまたご案内してみたいかなというふうに思います。

先ほどの動物園ですけども、これもだんだんそういうのを見るという方が減ってきたというか、到津なんかでも閉鎖されましたような傾向にあるんですけども、やはりレッサーパンダとか珍しい動物もおりますし、それから『桜ガイドまつり』と言って、ちょうど桜が咲く頃にそういうようなイベントも合わせてしておりますので、またご案内をしてぜひ来ていただきたいなと思っております。

それともうひとつ、ぜひお越しいただきたいのは、やはり『回天基地』だと思うんです。これは、マラソンとかその他いろんなイベントをしておられますので、ここにもぜひ来られて、戦後56、7年経ちまして、だんだんだんだんと

こういうふうな伝統に対する認識とか、そういうものも出てきていますし、あちらこちらで、きな臭い匂いもしておりますし、こちらの方も設備投資されて、展示物なんか割と整ってきております。ぜひ来ていただきたいというふうに思います。

周南が4月21日に合併ということだと、新南陽、熊毛、鹿野の方にも『漢陽寺』というようなお寺もありますし、『周南緑地公園』というところではキャンプとかいろんなことができます。ぜひ、これから合併した段階でグレードアップした観光内容をご紹介できたり、イベントも活発になるんじゃないかというふうに考えております。

ただ、私の方は社協の久米のコミュニティーの方をやっておりますが、『コミュニティーの夏祭り』というのがありまして、前は盆踊りということだったんですけども、これはやはり段々と昔の三叉というような踊りのテンポが現代人に合わなくなって来たというようなこともありまして、昨年度から納涼型にしましたところ、これが大盛況でございまして、しかも、7月にしていたのをお盆にやるようにしたんです。そうしますと、帰郷組がどっと押し寄せてきて、交流が出来るようになりました。それから、『カラオケのど自慢』とかいうようなことを致しましたところ、これが大変好評でございました。

それと、私なんかコミュニティーの副会長になってるんですけども、コミュニティーとしては、ユニークだと言いますと、『愛土隊』、愛するという字にさむらいという字を書きまして、『愛土隊』、というようなのを作りまして、環境問題、見て歩いたりして、そしてそれをみなさんと一緒に考えるような会というのを作りました。それと、コミュニティー活動と子ども会とが一緒に活動ということで、田植えとか稲刈りとかそういうようなことなども致しておりますけれども。地域おこしという面ではそれで年齢差を問わず一体になれるといいですか、今その点では、久米地区だけ考えますと、久米地区は大変ネットワークがうまくいってまして、諸団体の状況もうまくいっていると思います。それは、ひとつひとつの地道な各団体の努力で、やっていることにあると思います。例えば、駅伝をやりましても、それはしたい人だけがやるんじゃなくて、諸団体全部が協賛という形でしております。あまり珍しい取組みはないかもしれませんが、そういうことで、なにかツーンと言えば、諸団体がカーンと言ってくれるような今雰囲気になっております。

深田 どうもありがとうございました。国東の方は何かよろしいですか、今のご説明で、では、申し訳ありません、時間の方が段々迫ってきておりますので、ここでちょっと日程的なものですが、どうしてもJRの14時20分の電車で絶対乗らないと今日中に祝島に渡れませんので、この場所は絶対14時にはぱっと、そこから14時には出てるという状態で一応こしめさせていただきます。

きますので、多分最後のところはちょっとばたばたしてお見苦しくなるかもしれませんが、どうぞその辺ご理解をいただきたいと思います。では、次に福原さんお願い致します。

福原 さっきもちょっと言いましたけれども、『西徳山まちづくりの会』から来たんですけれども、両サイドにいらっしゃる方、たまたま、森山さんと藤井さんがいらっしゃるっていうのを知らなくて、今日来てから、ああという感じで、よくお世話になってる方々でございます。私たちは、平成7年くらいですか、ただ、自治区にいるおじさんとかおばさんがちょっと飲み会の時に集まりまして、「自分らの住んどるところはもう行政に頼っちゃってもはじまらんから自分らでなんとかせにゃいけんね」ってゆう話をしておりまして、「じゃあ、なんとかする会を作ろいね」っていうことで始まったのが『まちづくりの会』なんです。さっきも申しましたように、西徳山って間に新南陽が挟んでありまして、飛び地になってるもんですから、湯野、苔谷、夜市3地区なんですけど、「湯野がどう、苔谷がどうって言うてもしょうがないから、もう3つ一緒にやろうや」って言って、それぞれがお隣同士だったんですけど、今までひとつのことをみんなと一緒にするっていうことがなかったんですね。それぞれが、お隣なんですけど、なんとなくライバルみたいなかんじもありまして、それをとっばらって、だから、全然ひもつきじゃないんです。ただそこに住んでるおじさん、おばさん、お兄ちゃん、お姉ちゃんの資格で入る団体で、だから長がつく人も、バッチ付けてる人も、学校の先生もそれは全部普通のおじさんおばさんで入ってくださいっていうのが条件で作った団体です。

たまたま、苔谷駅っていうJRの駅がございまして、そこが無人駅になりました。夜なんかとっても女の子が一人で立ってたりすると、すごく怖い場所だったんです。そこに住んでる母親の一人として、自分の子どもも含めて、そういうちょっと危険なところがあると、高校生なんかになって、塾とかで帰りが遅くなると、もう親が絶対に迎えに行ってもやらないと危ないっていう場所があったので、そこをとりあえずなんとかできんじゃろうかっていって、じゃあとりあえず私らの当面の目標はそこをなんとかするっていうのにしてみようかっていって、いろいろやったら、徳山市さんが国鉄からJRに移行する時に、セイサン事業団の土地が苔谷駅の前にありまして、それを購入していただきました。

今は、それだけじゃないんですけど、活動のひとつとして、そこに道の駅的なものを作りたいなっていうのもあります。というのは、国道2号線とJRの線路とそれから山陽自動車道のインターチェンジがすぐそばにあるんです。今までいっぱいある道の駅は、島だったり山の中だったり海のそばだったりして、国道2号線のすぐそばで、JRの線路もあって、すぐそばには高速道路のイン

ターチェンジもあるっていうところに道の駅って無いんですね、日本中探してもたぶん。それは、土地が高くて駐車場の面積が取れないから作れなかったらしいんですけども、そこをなんとか道の駅的なものに徳山市さんとか国土交通省とかいろんな団体をお願いして、今段々具体化しつつあります。その苔谷駅前の土地をみなさんに注目してもらうためにはどうしたらええんかねって、ほとんど認識がなかったものですから、じゃあそこでイベントをしましょうっていうことになって、今年は今度の10月12日の土曜日にするんですけど、『西徳山いけいけフェスタ』っていうのをやります。今年で6回目で、隣にいらっしゃいます藤井さんのジャグリング、大道芸ですね、そんなのを出してもらってやってるんですけども、それも全然私たちスポンサーがいなくて全然お金がない団体でして、だから藤井さんもよくご存知なんですけれども、お願いただで出て、お礼は一切ありませんとか言ってですね、全部お願いしてやってるんですが。

それで今やってることでしたら、駅だけじゃありませんで、住んでるところって言ったら川とか道とかありますよね、イベントとか。そんなんで部会を作ってそれぞれが部会に分かれていろんな活動をしてまして、川に関して言えば、県からの要請もありまして、私たちの地区に夜市川っていう大きな川が流れてるんですけども、その川のパンフレットを私たちが作ろうっていうんで、大きな紙に、表は私たちが大人向けじゃないけど、パンフレット、いわゆる源流がどこにあって長さが何kmあって、どこどこを通過ってっていうそういう資料的なものを載せて、裏は子ども向けにすごろくを作りました。仲間にイラストレーターとかもいますので、その人たちをお願いして、ちょっとキャラクターみたいなのも描いてもらって、まだ完成はしてないんですけども、この前ほぼ完成で下刷りみたいなものを見たんですけども、それができたら地域に住んでる人が作った川のパンフレットだということで、まず地域に配布して、県の要請なんですけれども、そういう活動もしたりしています。

それとまたもうひとつ、『まつり部会』っていうのがありまして、どこのイベントでも要請があったら行きますっていうお手伝いもそうだし、何かしてくれて言われたらしますし、結構過疎のところとかもあって、「イベントをやりたいんだけどなにせ若いもんがおらん」とかってよく言われることもあるんですけども、そうしたところに言っていただけたら私たちは一応結構みんなおまつり好きでおまつりするの慣れてるんです。例えばテント張ったりとか撤収したりするのがみんなすごく上手いんです。だから、どこでも出張してお手伝いに参りますっていうのをやってたりします。さきほど三浦さんが言われた、ホールですよ。私個人的に村芝居なんですけど、演劇というか村芝居をやってるんですよ。

三浦 演劇だけじゃなく、『国見歌舞伎』というのもあったりね。ぜひお越してください。
森山 櫛ヶ浜ってところには、『八千代座』というのがありまして歌舞伎をやっているんですよ。それがこの度は、地元の歴史を劇にして、結構いいものができるようになったということで、そういうのももしなったらこちらからまたご連絡できるかもしれません。まあ、ひとつの情報として。

福原 それから個人的なお願いなんですけれども、『お接待』のマップができたらください。子ども連れて行きますんで。私、国東半島、子どもが実は3人いるんですけど、もうちょっと大人になってしまった子もいるんですが、まだ学校に行ってるときに主人と5人で回ったんです。全部回ったんです。すごくいいところだったのは、すごく私の中に残ってて、最近、お話をされたように、すごい変わりつつあって、いろんな設備ができてっていうのを聞いて、最近行ってないものですから、ぜひ行けたらいいなと思ひまして、『お接待マップ』お願いします。友達で、29人乗りのマイクロバスを持ってるのがいるんですよ。その人は人を乗せていくのが大好きで、できたらそれでツアーを組んで、行けたらなあ。

丸山 最善の努力をしましょう。

深田 ありがとうございます。では、藤井さんお願いします。

藤井 さきほど、いろんな話出た中で、大道芸って言いますか、ピエロって言いますか、ジャグリングって言いますか、3年前くらいからやってまして、何人か人数集まって来て、きらら博に出たりとかしてまして、最近はまだ毎週土曜日、日曜日はどこかでピエロになってます。ひょんなきっかけで、3年目くらいでしょうか、県の『ヤングパワー発揮支援事業』に認定いただきまして、『ザ・モール周南』、ショッピングセンターでイベントをやったんですけれども、それから縁で周南さんからいろんな地域のイベントをやってみないかというお話があって、つい先日、『道の駅フェスタ』っていうのをやったんですけれども、県下14ヶ所の道の駅が大集合して、これは県の協賛いただいて、『元気山口なんとか推進協議会』が後援されて、全部道の駅がいらっやって、木工教室とかいろんなPRされてすごい人だったんです。ちょうど2日目には西武が優勝して、それでまたお客さんが増えて、もうぐちゃぐちゃ状態だったんですけれども、今のお話聞く中で、そういうモールさんでイベントをやったらおもしろいかなと。今見せていただいた神楽とか、特産品とかそういう我々が知らないことがいっぱいありましたんで、モールさんとしては第3セクターですから、逆にこの場でのこういった話を対市民の方に会場は何とかありますし、これからできるかできないかは別にして、おもしろい話なのかなと。周南のお客さんがいらっやるイベントホールで、神楽やったりとか、国見のいろんな特産品なんていうのをPRされるのはこの機会じゃないかなと思ったりしてですね。

つい昨日も、『トラック引き大会』、『トラック協会』さんの主催で、モールでやったんですけれども、それもすごい人で、県下から30チーム集まって、優勝賞金10万とかですね。結局、女子高、サイキョウ高校の柔道部が優勝したんですよ。それもおもしろいかなと。それを外でやるなりイベントホールの中でやるなりいろんな形でPRの場所を逆にこっちから向こうに行ったり、向こうからこっちにいらっやって、相互の交流もできたらいいなと思っております。ジャグリングの話とは変わって来ましたがけれども。

福原 私たち情報が無いですよ。伝わって来ない。だから、今3人の方にいろいろお話聞いて、そうなんですか、そうなんですかっていうのがいっぱいあって、やっぱり情報が一番っていうか。

丸山 藤井さんのお話にあったジャグリングっていうので、実はキャナルに行くはずっと中の公園でやってまして、僕はあれを地元でやりたくて、地元の町がさびれてるんで、1年に1回くらい商店街まつりじゃないんだけど、したいんですよ。それで、イメージ的にはさびれた通りでもハーモニカの歯が欠けたっていうか、お店があって、野原があって、お店があるみたいになってるんです。だから、場所的には余ってるんです。だから、ジャグリングやりながら、ここでジャズバンドやって、こっちはなんとかのバンドやってっていうようなことで、通りを歩けばいろんな音楽が聞こえる、日本でいながら日本でないみたいなイメージで僕はずっとやってみたいなと思うことがあって。

藤井 今、『ツリーまつり』の担当をしまして、『ツリーまつり』っていうのは12月頭から最後まで御幸通りが全部電飾になるんですけれども、18回目なんですけれども、そろそろ新聞に出ますけれども、『ウィークエンドパフォーマンス』を募集しようと、それは、ジャグリングであり、マジックであり、音楽であり、手品であり、何でもいいと。それで、市民に公募して、夜の7時から9時の間30分あげるからやってみなさいと。それは日頃の練習の場としてやってほしいと。それで、簡単な音響と照明はこちらで用意しますよと。だから、静岡の『大道芸フェスティバル』まではいかないけども、そのミニチュア版をここでやってみたいと。ということで、今募集かけてまして、10月末のしめ切りで、12月の毎週土曜日はやってみたいなど。

福原 あの通りで。

藤井 そうです。御幸通りで。結構、きらら博がらみでネットワークができたもんですから、和もやってる、和というのはバナナの叩き売りとかそういう和風のをやってる人たちとか、我々のジャグリングのメンバーとか、結構ルートできたもんですから、その連中で今度集まってやろうやちゅうことで。

丸山 そのへんのネットが欲しいんですよ、私としてはね。大分県内はそういった環境のネットって以外と少なく、イベント的なネットはあるんですけど、団体

でやってるよとか、こっちでおまつりみたいなのちょっとやってるよということで、でも、専門的なネットがなかなかないんですよ。例えば、ジャグリングしましょうよとか、そういった関係の大道芸みたいなのをじゃあどのネットですって言ったときに、載せようがないっていうことがあって。それで、これやりたいって私の中でじゃあ、どこを当るか、チャンネルまでひとりで行って、お前らプロや、ギャラはいくらやっていう話をせんといけんのかなということも思ったんですけども。

藤井 ジャグリングは北九州はすごいレベル高いですよ。全国ナンバーワンくらいですよ。5、6人すごいめちゃくちゃ上手いのがいるんですけども、ただ、彼らがそういう小さいイベントに出て、盛り上げてくれるかどうかは分かりませんよ。ただ、オリンピックみたいに上手いよ、それで終わっちゃう可能性もあるんです。だから、その違いはありますよね。もう、技を見せてるだけっていう、それとも一緒に遊ぶの、どっちなのっていう。

丸山 もっと簡単に言うと、今お話してるこの部分が逆に言うと毎月っていったらあんまり極端な話になりますけど、せめて年2回くらい情報交換の場としてこういう場、例えばまつりならまつり、なんかセクションごとに分かれてそういうことができると、そういったネットワークが段々できてくるのかなと。ああ、あんとんとこ、こんなことやりののなら、じゃあうちに来てくれんとか、というような話ですよ。できれば、季節ごとみたいなかんじで、スリーシーズンみたいな形で、夏前になると2月3月くらいに今年の夏何やるみたいな話で、うちはこっちでやるけん加勢に来てみたいな話が持っていける、そういう場が逆にできるといいのかなという、お互いに励まし合うというような関係がいいのかなと。今まではそういう場がない、ただ一過性のものですと来てて、終わってる。そう言えば、向こうの方はあんなことやってる、こっちの方はこんなことやってる、で終わってるという。それがあんな程度のネットの中で、どちらの会場、その都度動こうよみたいな話でも結構ですし、違う場所で話合うというのでも結構ですし、そういう場がたくさんできればできるほど、そういう連携ができるし、いろんなまた新しい創造ができるのかなっていう。

逆に言うと、周防灘フェリー2時間かかるなら、さきほど言ったように僕は長いと感じたけど、長いと感じない方法を周防灘フェリーの中でなんかやればいいと思う。あんだけ広いフェリーで僕ら今日3人で貸切りかと思いました。実は。席も完全に貸切りで。これは3人のために御用達、いいなみたいなかんじなんです。だから逆に言うと、そこで3人だから、2時間の間お食事しましょうよと、お食事して音楽聞いたらいいのかなと、夏の間後ろの甲板で、デッキがありますよね、あそこで音楽聞いたりジャズを聞いたりとかいうことはどうなのかなとか思うじゃないですか。ビールを飲んで往復して4時間で帰って

くるとか、2時間しゃべりつづけるとか、2時間騒ぎつづけるとか、そういうクルーズがあってもいいじゃないですか。徳山からここまで来るのにビールを飲みつづけてどんくらい飲めるんかやっちみいってことですよね。そういった発送も逆にいうとおもしろいのかなと。時間を有効に使うというか、短くするんじゃないで、どうしても2時間かかるんだから、その2時間をどれだけ利用できるんかという話ですよね。まあ、極端な話、中で映画しようと思ったらちょうど2時間あったら1本の映画見れますよね。ちょっとした映画はね。

森山 さっき藤井さんがおっしゃったように、ただ上手でチャンピオンを見るんじゃないで、やっぱりちょっと参加、今ごろは参加型っていいですか、自分が体験するっていうのがすごい大事な要素だと思うんですよね。ですから、なんかイベントを計画するときは必ず自分が参加できるというような要素を自分が盛り上げることでできないかっていうように思います。

丸山 ただ、難しくってですね、年齢構成を考えるとうちの町は確かに高齢化社会の中で39パーセントの高齢化をうちの町なんかそうなんですけど、だから、年寄りばっかちゅう表現は悪いですけど、年寄りが多いと。だけど、若い人がゼロではないんですよね。だから、両方満たしてあげる条件っていうのが何なのかって、非常にそのへんは思うことがずいぶん違うんです。それで、落語やると結構年寄りの人が来たり、寄席やると年寄りが来たりしますけど、じゃあ、若い人が何かなと考えると、なかなか若い人のニーズっていうのがわかんないんです。それで、妙なことに、去年そういったことで、クリスマスツリー、夜の夜中に電気消しに、タイマーつけてないから私が自動タイマーということで消しに行ったんですが、アベックがいるんですよ。駐車場が広いんですよ。二人で座ってまして、私が「どうしたの？」って言ったら、「いや、きれいですからもうすこし見させてください」って二人でこう見てるんですよ。それで、ああそんなんがいいのかなって、ちょっとわかんないんですよ。

福原 いや、いいですよ、絶対。

丸山 むしろあそこでツリーを見ながら、ビールかなんか飲みたいなって思ったんですが、結構そんなかんじでした。

若い人って、ひとつのことってきらいでしょ。1ヶ所に行ったら、あれもできてこれもできるっていうのが今の若い人の考え方じゃないですか。昔の僕らはここの場所に行ったら何かこれ一個ができればよかったんですよ。今の若い人は、ここの場所に行くと、これもできてこれもできてこれもできるとか、いうので複数を結構好むのかなっていうふうには私自身は思ってるんですけども、だから、いろんなイベントを組んだところで一個じゃ絶対だめやなと、あれもこれもこれもっていう形のものじゃないといけないのかな、今の若い人はっていう気はしてますけどね。

深田 藤井さんの活動のご紹介でしたけど、もうよろしいでしょうか。

藤井 よろしいですよ。

深田 では、申し訳ありませんが次第を進めさせていただきます。

5番目の互いの地域に対する理解、認識、関わり方というのは、今お話の中でそれぞれ触れられていただきたみたいですから、特に改めてということはよろしいかと思しますので、6番目の相互交流に対するアイデア、意見等、今お話の中でやはりこういう部分にもちょっと踏み込まれた部分もあるんですが、本日の一番最終的なテーマであります今後の相互交流について、今後どういう展開が必要というか、思われるかというのを何かご意見等あれば、お願いしたいとは思いますが、デザイン会議の会長さんどうでしょうか。今後の展開については。

三浦 そうですねえ。

深田 それぞれの地域で、今いろいろお話はあったんですが、どういう接点かというのはなかなか難しいんですね。国の方からこういった事業でやってくれという、我々も接点の部分になるとですね。

三浦 だから、この事業自体も平成の何年からかやっておるんだけど、結局それが根付いてないというか、事業だけで終わってしまってるというか。

深田 参加した人にはそれなりに形成されるものもあるんですが、知らない人の方が圧倒的に多いわけですね。

三浦 お互いにそれがそれぞれに宣伝になってない部分が、知らされてない部分が多い。で、ここに中学校の剣道大会、剣道の交流っていうのがありますが、うちの先生の子どもさんがたまたま県の炊出しに行ったとかっていう話になったんですね、じゃあ、それがその人にとってはわずらわしかったっていうような部分でしかないっていうようなね。そういう部分が若干私たちとずれてるっていうような、そんなのがあるから、そういう部分もどこかで理解してもらうような形を作っていくと、それをお互いそれぞれの地域で交流、交換できる、お互いの情報を交換できるっていうこともまた考えて行かなくちゃいけないですね。さきほど言われたみたいに、お互いの宣伝が行ってない部分だけそんなに変わってるのっていう部分がすごく多いのかなというのがあって、これからどういうふうにしていくのがいいのかな。やっぱりもうちょっと、インターネットとかそういう部分を大いに使ってでも、やっていかないと難しい。それからお互いの人材に詳しい技術を持ってる人とか、アイデアを持ってる人とかがいるんで、そういう部分もこれからできるだけこちらの方が交流して、今丸山さんが言われたみたいに。

深田 情報化でインターネットで、そういうような情報がとりやすいですね。私も今いろいろこういったことを国の方からお話があって、こういったメンバーで

しようとか思ったときに、徳山市さんの方はもう徳山市さんをお願いしたんですよ。もうあまりにも守備範囲広いですから。でも祝島の方はインターネットで祝島のホームページ開いたら、結構人が限られるんですよ。地域づくりグループとかですね。だからもう飛び込みでこういうふうな意見交換会をしたいと言ったら、非常に色よい返事があって、すぐに話がまとまったんですけどね。なかなか、やっぱり大きな所ですと個人個人が目立たないものですから、なかなか人のそういう人材についてはなかなか分かりづらいですね。かえって国東のほうの方が分かりやすいですね。あんまりいないから。一応私も徳山市さんの例の市民活動センターのホームページとかあるじゃないですか、いろいろグループをこう、いろいろ見てもちょっと分かりづらかったものですから。

藤井 100何団体ありますね。

丸山 逆に言うと、こちらに来ると数的なものでみんなどこにとつづくのっていう部分が実際ありますよね。個人的に知ってれば、「じゃあ藤井さんこれ、そのへんのところはどのネットで探してくれませんか？」とか、「お世話してくれませんか？」というような話ができると思うんだけど、その取っ掛かりの部分がどうしても、たとえホームページ見ようが何しようが一覧表でしかないし、ほんとの顔が見えない。会って、極端に言うと、会って、一杯やって、ばか話して、そうするとよりネットが広がって、もうお前は酒が強くてというような話の中で、じゃあ今度助けてよみたいな話ができ、そこで生まれてくるっていう部分も確かにあると思うんですよ。だからそこへんが今までは欠けているというか。

深田 多分、市民活動の方はセンターなんか拠点にして、横のネットワークそれなりに広がって来てるんじゃないかなとは思ってますね。想像ですけどね。結構何とか市さんとかになると、ああいうセンターあたりが充実してるんですよ。私もまだNPOとかそういうものが出だしたときに、一番神奈川県『ボランティアセンター』というのが結構有名だったものですから、そこを見に行っただんですけど、そのとき、コピーなんかもただで焼かせるんですよ。用紙は自分で持ってきてくださいと、ただ、コピーなんか自分で焼いていいですよってような開放をしまして、行政はこういうことを支援すべきだなと非常に思ったところがあるんですね。それで、この間こちらの駅のJRの2階ですか、あのへん見たときにやはり同じようなのがかなり充実されてきてるな、こういうところにもかなりそういうものが充実してきたんだなと思って、非常に感心はしたんですけど。非常にそのへん、『いなか』とはまた違う、『市』と『いなか』の取組みの仕方はね。

福原 支援センター1周年ですかね、もうすぐね。今度19日にイベントやるんですけどね。

丸山 うちの町内で言うと、行政の担当の人から電話があって、「丸さんこれこれした

いんだけどいいかな？」とか、「こういうふうにやりたいんだけどなんかアイデアあって、こういうふうにやってくれるかな？」とか言うんですが、「じゃあ、このこととこのことは適当なやつがいるから電話しとくわ」とかそんなかんじなんですよね。だから、まとまりがあって、組織的に動くっていうかんじではなくて、あくまで一本釣りの話でしかない、それで、私が個人的に持ってるネットワークみたいなことで動く、そしたらその人がまた個人的なネットワークで動くというようなかんじで。だから、組織的単位として、これをひとつイベントしたときにバンと流れるというのがなかなかできない。実際、端末じゃないけど、行政がなかなか手が出ないといったかんじですよ。でも、大きいところはそういうのができてくる、そこに差があるっていうのは確かに言えます。

福原 ああ、小さいことなんですけど、さっき私が言った、湯野温泉で、一晩泊まりで交流会したとき、今度の土曜日『西徳山いけいけフェスタ』の6回目があるんですけど、その多分3回目か4回目だったと思うんですけど、国東の方からフリーマーケット出店していただいたんです。特産品を持ってきていただいて。葱をみんなにいただいて、配布もあって、結構短時間で売り切れてしまいました。小さいところからでも、そういう民間の間で交流が途切れずにできていったら、段々いろんなネットワークができるのかなってそのときにすごく思ったんですけどもね。そのときはお互いに、私たちは徳山市の方からあれがあって参加してっていうのがお互いにありまして、行政が絡んで、どこまで私たちが個人的に踏み込んでいっていいのかっていうのがよく分からないのもありまして、その後が交流会無かったのがとても残念なんですけれども、またこういう席に来させていただいて、もう一度みなさんと一緒に仲良くなれたらいいなってすごく思いましたけどね。

深田 今日はこちらのメンバーが都合で男性ばかりなんですけど、最初は女性1名くらいということで算段してたんですけども、日程の関係で都合がつかなくなったものですからね。まあ、女性と女性の繋がりの方がまだ強いかなというのはありますけどね。チャンネルとしてはね。

丸山 月1でうちも『朝市』やっています。『農業開発公社』っていうのがやっていますよ。そこには物自体は集まっていますんで、出荷自体もやっていますけど、月1で『朝市』やっています。だからそこに言えば、物理的なものはある程度揃ってくるし、人手的なものも揃ってくるっていうのがありますんで。

そして、今年からは都合のいいことに、もしそれをやるって言ったら、公社にいて一生懸命仕事してたやつがうちの役場の商工観光課にいて、私のグループの一の手下に今なっていますんで、非常に都合がいいかなと個人的には思っているんですけど、ほんとにそういう形で個人的ネットみたいなうんぬんなんですけれども、それはうちのいなかの行政の悪いところなのかもしれないけど、Aセク

ション、Bセクションの情報が繋がらないから、結局私はAセクション、Bセクションにも顔がきくから、押しが強いということで、Aセクションにも言って、Bセクションにも言って、それで話はまとまると。なかなか、そこへんのセクションがらみの話とかあったりするんで、それがいいのか悪いのか、民間レベルでそこへんのネットワークが無いと言えば無いんですけど、これから先の課題としてはそういうのがあるし、逆に言うと、大は小じゃないけど、『いなか』は『いなか』のいいところを持って行って、そこを売るという商売をして、『いなか』だけがいいわけではなくて、都会は常にいいなと思ってんですけども、そういう部分を上手く噛み合わせることのチャンスがどれだけ持てるのかだと思っんですよ。ということは、少なくとも1年に1回くらい、行政がらみでするとか、逆に言うと、行政がらみじゃなくてもこういう会を1回1回きちんとなせるようになれば、もっと新しいものが新たな生産性を生むのかなという気はしますけどね。どちらにしても、そういう機会がないと、なかなか新しいものってすぐ、じゃあ一度会って、次に行きましょうっていうのはなかなかならないですよ。日程的にお互いのスケジュールをこなしながらやってるじゃないですか。じゃあ、例えばうちの12月23日にクリスマスのイベントをやるんですけれども、じゃあクリスマスのときにみなさんをお呼びしようと、なんか加勢してくれます？、手伝ってくれます？っていう話をしたときに、もうお互いにスケジュールが入ってるからバッティングしてだめでしょう。そういう絡みが出て来たりするんですよね。

深田丸山 でも、何かあったときに声が掛けられる関係っていうか、そういうのであれば。だから、そういうふうにはバッティングしてもいいんだけど、そういう話が出る間柄、「今度こういうのがあるんだけど、空いてたら来てくれます？」、みたいなね。

深田 「じゃあ、私、大分県で知ってる人がいるんで聞いてみるわ」とか。そういう地道な交流の中で、若干そういう接点とかチャンネルを築いていくっていうようなね。

丸山 「わかめがたくさんとれたけん持っていくわ」とか、「何か売りさばく方法はないかな？」とかね。

深田 国東の方で、そういった農産物とか海産物とか安いのはよく分かりますから。私も国東に行ったとき、よく買って帰りますよ。

福原 新鮮で安いですよ。

丸山 『いなか』に行くと、大概の農家さんは、僕の家は農家してないですが、自家用に作ってるじゃないですか、おじいちゃん、おばあちゃんが。それで、『いなか』の人って不思議なもので、その人が食べるのは多分苗1本でいいと思うんですよね。でも、10本くらいまとめて植えてあるんですよ。結局、実がなっ

てるんだけど食べないんですよ。だって、そのおじいちゃんなりおばあちゃんなり、せめてあってもキュウリの苗なんか2本あったらおおごとなんですよ。食べきれないんですよ、多分。だから、残りの5、6本は必ず枯れてますもんね。たまに、「立派なキュウリやな」とか言う、「持って帰り」、ってそんなかんじなんです。逆に言うとそれを、1本10円でも売ってやると絶対喜ぶと思うんですよ。採算性がないものを10円、30円で売ったらと思うんですよ。

福原 そうですね。そのままだったら枯れてしまうのでしたらね。買った人は安くてもおいしいものを提供していただけてうれしいですよ。

森山 JAのあそこの朝市なんかすごいですよ。榊とかああいうのを売ってますけど、盆前とか正月前とか、買う人の列ができるんですよ。すごいですよ。あんなのも売れるんだったら、売るものも考えたらいいですよ。

是松 『いなか』の方は大体、榊とかああいうのを山でとるものですから。それでもだいぶ少なくなったみたいで、うちも花屋ですから、買いに行きますけどね。

森山 でも、スーパーで買うよりかうんと長持ちしますよね。

是松 やっぱ新しいから。

森山 やっぱお野菜もそうですよね。

丸山 榊とかお店で買ったことない。

是松 山でとれるからね。

森山 国東から輸入して送っていただいて、それで売ったらねえ。だから、そういう交流もやはりあったらいいですよ。

丸山 だから、そういったのを情報で載せられるんですよ。集めていただいて。例えば、「今こちらではキュウリをすごい欲しがってる」とか、「大根が高いから安い大根があったら教えて」とかっていう情報を流してもらえれば、「分かった、トラックいっぱい持って行こうか」という話になりますよね。そこへんが、居ながらにして情報を交わせる部分なんです。顔を見なくてもそれで情報がお互いに取り合えるというか。だから、種別をしていくとそれなりにいいのかなと。ニーズに合わせた部分で行けば。だから、いらないって言うのに、例えば大根が足りてるのに、大根をトラックいっぱい持って行ったところで誰も喜ばないですよ。「おでんにする大根がない」とってみんなが言ってるときに、いいよ、1本10円っていう話で持っていけば、みんなから喜ばれるわけで、そこへんの情報のやり取りをどうやって上手くやるかっていうところも出てくると思うんですよ。実際、物流の関係から言うとね。

森山 今、『コア』って言うのができてますしね。あれなんかでも、農産物なんかを売ってるんですよ。ネットワークを作れば、そこでこちらのものを売るっていうような交流もできるんじゃないですかね。結構人が集まっていますし。もっと

品揃えがよくなれば、もっともっとあれが発展すると思いますしね。

丸山 野菜でも、出荷用の野菜と自家用の野菜と全然違うんですよ。出荷用は結構消毒するんですよ。

福原 そうですよ。農家って、自分の家で食べるものは消毒しませんからね。

丸山 おじいちゃん、おばあちゃん、自分の家で食べるものはあんまり消毒しないんですよ、正直言って。だから、見てくれ悪いんですよ。キュウリって真っ直ぐじゃないんですよ。こんなに曲がってるんですよ。でも、味は変わらないし、ほとんど消毒してないでしょう。むしろ、今はそっちの方がみなさん喜ばれるのかなって思いましたけど。だって、規格がありますもんね。オクラなんてそうなんですよ。規格より少し伸びたらだめなんですよ。それが伸びるのが一晩でだめになるかならないか決まるんですよ。去年なんか、バケツいっぱいもらって、そんなに食べれませんでしたよ。

深田 申し訳ありません、そろそろよろしいでしょうか。次がありますので。本日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。まだこの場でご発言充分されてないということであれば、お手元の方に原稿用紙を配布させていただいておりますので、またご提案ご提言等いただければ大変ありがたいと思います。どうもありがとうございました。